

地域の育能力を考えるフォーラム

テーマ「～つなげよう 次世代へ育成の力を～」

○コーディネーター

上富田町青少年育成町民会議

出 羽 正 典

○パネリスト

上富田町青少年育成町民会議

暁 真 彩

熊野高校 3 年

亀 井 菜 々

串本古座高校 1 年

前 島 陽 香

串本古座高校 2 年

尾 鷲 智 佳

青年クラブみなべ

天 野 成 悟

出羽 皆さんこんにちは。本日、コーディネーターを務めさせていただきます出羽と申します。

上富田町青少年育成町民会議という団体で常任理事を務めさせていただいており、また、国際交流を主眼とした海友会という青少年育成団体の会長もさせていただいております。

少し時間をいただいてレジュメに掲載しています上富田町のマスコットキャラクター「ひょうたんせんぱい」を紹介させていただきます。本年の3月3日にこの「ひょうたんせんぱい」が誕生しました。悩み事を「ひょうたんせんぱい」に相談すると悩み事を解決してくるというキャラクターです。

では、リレー式次世代健全育成事業の一環で～つなげよう次世代へ育成の力を～と題して「地域の育能力を考えるフォーラム」を始めたいと思います。

まず、この事業の趣旨ですが、地域の大人・青年が一体となって青少年の健全育成に取り組む体制を地域で構築してもらい、地域の青少年が青少年を育てていくという環境を整備していくことを目的としています。

現在、県内で多くの地域や団体でこの活動に取り組んでいただいておりますが、今回は高校生が市町村教育委員会などと一緒に青少年育成の事業に取り組んでいる活動内容や効果、それに対する課題などをお伺いし、地域の育能力向上に必要な取組を考えていきたいと思います。

それでは、パネリストの皆さんをご紹介します。

上富田町青少年育成町民会議の暁真彩さん、熊野高校3年熊野サポータークラブ亀井菜々さん、串本古座高校1年前島陽香さん、串本古座高校2年尾鷲智佳さん、青年クラブみなべ天野成悟さんです。

それでは自己紹介を兼ねて、どんな想いがあって活動に取り組んでいるのか、お話いただきたいと思います。

上富田町青少年育成町民会議の暁さん、お願いいたします。

暁 上富田町青少年育成町民会議の暁です。よろしく申し上げます。

私は、今年の3月まで熊野サポーターズクラブに所属し、3年間、地域のボラ

ンティアや地域のイベントなどに参加しました。幅広い世代の方と交流を行う中で、地域・世代によって様々な問題や課題があることに気付きました。解決する方法がないかと考えましたが、当時、高校生である自分にできることは、わずかなものでした。私は、こうした問題解決のため町づくりに取り組める仕事に魅力を感じました。また、高校生の時は、周りの大人の方に支えてもらったので、今度は、私がサポートできる大人になりたいと思っています。今の教育委員会での業務の一つに毎週水曜日に寺子屋で小学生のサポートスタッフを行っています。高校の時にクラブで学童保育のボランティアを行っていたので、その活動を活かしながらサポートが出来ていると思っています。最近、高齢者の方でも踊れるダンスレクチャーのボランティア活動を通じて交流を図っています。高校生活で学んだことを活かし、後輩達のサポートを行っていきたいと思っています。去年キャプテンを務めていた時、部員が多かったためキャプテンや顧問だけでは全員に指示が行き渡るのに時間がかかってしまいました。イベント開催時には、イベントスタッフとして後輩達を支えることが出来ればと思っています。

出羽

ありがとうございました。

熊野サポーターズクラブ3年亀井さん、お願いします。

亀井

熊野高校3年生の亀井です。よろしくお願いします。

私が、サポーターズクラブに入部した動機は、クラブ見学時に先輩が踊っているダンスを見てカッコいいと思ったからです。クラブ活動の内容に興味を持ったので詳しく活動内容を聞いてみると、ボランティア活動なども沢山やっていて、地域の人と関われそうだったので入部することに決めました。私は、どのボランティアに参加する時も「一期一会」を大切にしています。ボランティアで関わった方が「今日は楽しかった」と思ってもらえるよう活動に参加しています。一生に一度限りの出会いかもしれないけど、そのたった1回の出会いに感謝して、ダンスやボランティアを全力で取り組んでいます。ボランティアの内容は、学童保育での勉強のお手伝いや地域の高齢者の訪問などを行っています。学童保育では、春・夏・冬の休みを利用し、町内3カ所の学童保育所を訪問し、本の読み聞かせや宿題を教えたりしています。高齢者と話す際には目線を合わせ、大きな声ではきはきと話すことを心がけています。また、目を見てうなずきながら話を聞くようにしています。

出羽

ありがとうございました。

先程、熊野サポーターズクラブの紹介がありましたが昨年、日頃の実績が全国的に認められ素晴らしい賞を受賞されておりますのでお話したいと思っています。

暁

昨年、住友生命主催の「ヤングジャパンアクション」という賞と、パナソニック教育財団主催の「子どもたちのこころを育む活動」において、全国大賞をいた

できました。

今回、私達が行っている活動の中で「ハートフルアクション」や「子ども保育ボランティア」等の活動が評価されたのではないかと考えています。

クラブ活動として活動の継続性や異世代との交流などが評価されました。

出羽

ありがとうございました。

串本古座高校1年前島さん、お願いします。

前島

串本古座高校1年の前島です。よろしくお願いします。

私は、CGSという学校外へ出て、地域と関わるボランティアのクラブに入っています。なぜ、このクラブに入部した動機は、私は人と関わるのが好きなので、学校の外へ出てボランティアができる活動に魅力を感じました。

地域に役立つことを行いたかったので、自分達の活動が地域に貢献できるというところがとても良いところだと思っています。最初は、クラブ紹介の時に、顧問の先生に文化祭でうなぎの蒲焼きができると聞いて楽しそうだなと思いました。

CGSは、地域包括的支援部といって、グローバルな視点を持ったローカルリーダーの育成に力を注ぐことになりました。そこで、クラブ活動の面でも高校生が地域活性化に貢献し、地域の未来を考えることを目的に新しいクラブを設立されました。生徒同士で地域のために自分たちに何ができるかを話し合った結果、「地域の特産物のPR」と「地域ボランティア」を積極的に行うことになりました。実際の活動としては、トルコのことを研修するトルコ部会、ジオパークのことを研修するジオ部会、地域産業のPRなどを行う班があります。

今、私はジオ部会に入っていて、町内の古民家の整備や避難経路の確認、また、地域の教育をつなぐボランティア活動で毎週金曜日に町内の学童保育と子ども園に行っています。内容は、学童保育で勉強を教えたり子ども園では子ども達と一緒に遊んだりしています。

出羽

ありがとうございました。

古座はうなぎが有名ですが、おいしかったですか。文化祭はどうでしたか。

前島

文化祭での出店等をクラスで決める段階で、うなぎの蒲焼きは不採用となりました。また、私はテニス部の試合で文化祭に参加できませんでした。

出羽

次回は、食べられるように頑張ってください。

串本古座高校2年尾鷲さん、お願いします。

尾鷲

串本古座高校2年尾鷲智佳です。よろしくお願いします。

私は、トルコ班に所属しています。活動内容は、トルコのお菓子やお守り作りの活動を行っています。

先日、トルコの高校生が串本町を訪れた際、トルコ班の部員達と交流しました。高校内を案内したりトルコ記念館やエルトゥールル号で遭難された方の慰霊碑にお参りをしました。言葉は英語だったので自分なりに努力しましたが、片言の英語でしか会話できなかったのもっと勉強をしなければいけないと思いました。

また、今、串本町の教育委員会などと一緒に町内の子ども向けに、トルコのお菓子づくりのイベントをする予定にしています。私は何か人のために役立ちたいと思っていても、人付き合いが苦手でボランティア活動には参加できないと思っていました。でも、クラブならみんなで参加できる場所がいいなと思いました。また、一人では出来ないことが、みんなと一緒になら出来ることがあると思います。進路なども考えた時に色々な経験をしていくと視野が広がると思っています。将来仕事をしていく上で、コミュニケーションを取れる人は仕事もできると聞いたので、自分の苦手な部分を克服するためにCGSに入りました。

出羽 ありがとうございます。

CGS、コミュニケーション ジェネラル サポートの略称と教えていただきました。本年4月に設立した非常に新しいクラブと聞いています。

それでは、青年クラブみなべの天野さんお願いします。

天野 青年クラブみなべの天野です。よろしくお願いします。

青年クラブみなべの活動内容は、町内の子ども達に向けたイベントの実施やイベントの補助などを行っています。現在、会員60名程度で活動しています。

子供向けのイベントとしては、縄跳び大会やクリスマスにサンタクロースの格好をして、希望があった家庭にプレゼントを配るサンタクロース大作戦などを実施しています。

また、他団体との協働事業では、ウミガメのパトロール、田植えや稲刈りなど米作りの事業、川辺や海の観察事業を実施しています。10月にはハロウィーンの事業などを実施しています。

私自身、青年クラブに入会した理由としては、地域に住んでいる人との繋がりが必要であると感じていた時に青年クラブの存在を知り、実施していた活動内容も自分が興味をもっていたものに近かったので入会しました。

出羽 青年クラブみなべは、県内でも有名な青年団体であります。青年団活動が非常に衰退化してきているが、青年団の形で年間を通して青少年活動を行っているのは、紀南地方では青年クラブみなべのみとなっています。約10年前に県青年団体連絡協議会が休止状態となっていますが、青年クラブみなべが日本青年団協議会との関係を引き続き継続していただいている現状です。

それでは、次に活動していく上での効果や課題、困ったことや嬉しかったことなどについてお話いただければと思います。

暁さんからお願いします。

眺

地域連携を取り入れたボランティア活動は、地域が抱える問題の解決にもつながっており、地域と生徒の間にWIN-WINの関係が築かれていると思います。高齢者の声かけ訪問や学童保育ボランティアでは、幅広い世代の方々と関わりを持つことができるので、絆作りと自助・共助の精神が養われていると思います。高校生にとっては、経験する全てが実践であり、コミュニケーション力を磨かれることによって公共心や他者を思いやる感性が育まれると思います。

平成27年には「まちづくり連携交流協定」を上富田町と熊野高校が結んだので町と高校が連携して、様々な活動を行っていければと思います。

課題としては、イベントの参加日数です。イベントの参加日数が多いので、参加する人数を予め決め班分けすることにより、一人ひとりの負担を軽くすることができるのではないかと考えています。サポーターズ全体で参加すると参加できるイベントやボランティアの回数が限られてくるので、ローテーションを組み班分けするのが必要であると考えております。

また、引率する大人が顧問だけだと負担が大きくなるので、地域の団体でサポートできないか考えていく必要があると考えています。

サポーターズは今でも様々なボランティア参加しているので負担になっていないかと感じています。また、NPO法人化についても検討しているところです。

出羽

ありがとうございました。

続いて、亀井さんお願いします。

亀井

たくさんのボランティア活動に参加することで、普段は関わることの少ない高齢者の方や学童保育の子ども達と交流する事ができました。

実際に足を運んで参加することで、現場の状況や相手の立場にたって物事を考えることを学びました。私は、初対面の人と話すことがもともと得意ではなかったのですが、ボランティア活動に参加したことにより、笑顔で相手の目線に合わせて会話ができるようになりました。また、学校のマラソン大会の時に、訪問している高齢者の方がコース沿いに立ち応援してくれたりする姿を見た時、私達の活動が認められたような気持ちになりとても嬉しいです。他にも、社会福祉協議会のボランティアで高齢者の方と一緒にボランティアをしたりしています。

私たちの活動を見て熊野高校に入学し、サポーターズクラブに入部したという部員がいることが嬉しいです。

課題としては、高齢者のお宅訪問などで話を聞くだけでなく、会話を発展させて「また会いたい」と思っただけのように部員たち一人ひとりが心がけることが大切だと思います。

出羽

ありがとうございました。

続いて、前島さんお願いします。

前島

今困っていることは、CGSは今年出来たばかりのクラブなので学校内でも認知度が低いということです。まだ、知名度がないので地域へ出向き地域に貢献し

C G SのPRを沢山行いたいです。活動内容は、学童保育と子ども園や老人ホームでのボランティアを行っています。おじいちゃんやおばあちゃんと関わることが少ないので老人ホームに出向いた際は、人生の先輩から色々と話を聞きたいと思っています。休みの日にも町主催のイベントに参加したいと考えています。

嬉しいことは、学童保育に参加している小学生がスポーツ少年団に参加して出会う機会があり、気軽に話しかけてくれて嬉しく思います。また、学童保育に行くと「また、来てくれた」と言って喜んでくれます。

学校のオープンスクールではC G Sの紹介をしました。すると中学の後輩がC G Sの活動を知り、串本古座高校に入学したらC G Sに入り一緒に活動したいと言ってくれたことが嬉しかったです。

出羽 ありがとうございました。
 続いて、尾鷲さんお願いします。

前島 今、トルコ部会で串本町役場に勤務されているアイシェさんとイベントを計画していますが、担当の先生にどんなことをしてもいいよ、と任されました。みんな先生をびっくりさせるほどのいいものを考えようという雰囲気になっているけど、なかなか企画がまとまらない現状です。自分たちで物事を進めていくのは、大変だと思いました。

また、串本町のトルコ協会の人にトルコのお菓子やお守りの作り方を教えてもらって一緒に活動しています。普段、関わりのない人と一緒に物事を進めることは緊張するけれどとても楽しいです。

出羽 ありがとうございました。
 続いて、天野さんお願いします。

天野 青年クラブみなべの効果としては、他団体と協働して事業展開をすることで、他団体との連携が強化されて、町ぐるみ、地域ぐるみで青少年の健全育成に関わっているような気がします。また、子ども向けの事業、なわとび大会やサンタクロース大作戦などは、保護者の方に喜んでいただけていると間接的に聞いたりします。そういうのを聞くと活動が認められているような気がして嬉しい気持ちもあり、やりがいを感じています。

課題としては、会員数の減少があります。7、8年前までは、会員数も100名を超えていましたが、現在は、減少してきている。会員獲得の方法としては、ロコミや成人式の時に案内するくらいなので、方法を工夫していかなければならないと考えています。また、地元の高校生との関わりが少ないことも課題の一つだと感じています。イベント開催時、高校生と顔を合わせることがあるのですが、活動内容が異なるため、良好な関係の構築まで至っていないのが課題であると感じています。

出羽 ありがとうございます。

今、話の中にあった会員数の減少については、あらゆる青少年団体が抱えている課題であると思います。私の所属している団体においても会員数が減少してきています。時代背景が変化してきているためやむを得ないと考えるところではありますが、会として存続していくためには、会員が必要となります。

本日、高校生の皆さんが社会人になった時に、どのような活動をしている団体に魅力を感じて入会を考えますか。

前島 私は、地域の料理についても詳しく知りたいと考えていますので、郷土料理について学びたいと思います。

亀井 みなべ町については、梅が有名な地域であるので梅をPRするイベントなどで関わっていければと思います。

出羽 団体として魅力があれば人が集まってくると思いますので、何かのきっかけのヒントにして、今後、団で議論していただければと考えています。

それでは次に、活動していく上で今後どのような取組をしていきたいかをお話いただければと思います。暁さん、お願いします。

暁 熊野高校1年生必修科目の中に「家庭基礎」の授業があります。その授業を通じて生徒200名がボランティア活動等に参加できることになったので、クラブ活動だけではなく授業でも熊野高校全体で活動回数を増やし、学童保育などで子ども達と関わる機会を増やしていけたらと思っています。また、町の行事などへも参加して様々な交流を通じて、サポーターズの活動に興味を持ってもらい、この活動を次世代につなげていければと思います。

高校を卒業してからも地域の子供達から声をかけられます。私の妹は小学校2年生ですが、私達の活動を見て将来熊野サポーターズに入部したいと言っているのを聞くと嬉しくなります。活動を通して様々な地域の小学生から高齢者の方まで交流を深めることが出来るので、絆づくりを熊野高校生全体で取り組んでいければと考えています。

現在、朝来小学校で学童保育の子ども達によさこい指導を行い、地域のイベントで一緒に披露しています。そういった活動を他の学童保育の子ども達や地域の子ども達と一緒に、活動出来る場を作っていきたいと考えています。更に、活動を経験した卒業生達が、地域で活躍するリーダーとして地域発展の原動力となることを期待して、活動に取り組んでいきたいです。

私は、去年までサポーターズのキャプテンとして活動していた時は、モットーである『地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダー』を目指して活動に取り組んでいました。今後も、このモットーを引き継ぎ幅広い年齢層の方々と交流を深めていって欲しいと思います。また、後輩達には個々の得意なことをボランティアに活かし、イベントの企画・運営など、学年問わずに意見を出し合い、活躍

の場を広げて行って欲しいと期待しています。

昨年からは「ステップアップ！上富田から世界へ」を新たなモットーとして掲げました。後輩たちには今までの活動はもちろん、国際交流も積極的に行って欲しいと感じています。少しでも多くの方にサポーターの名前を知ってもらって、今よりも深く地域に根ざし問題解決に取り組む高校生リーダーになって欲しいと思います。

出羽 ありがとうございます。
 続いて亀井さん、お願いします。

亀井 今後は、私たちを必要としてくれる方々とさらに交流を深め、部員一人ひとりがサポーターズリーダーとしての自覚を持って、ボランティア活動やイベントに参加していきたいです。また、3年生はあと1ヶ月で引退なので、残り少ない活動の期間、先輩達から受け継がれてきた伝統を下級生へ引き継ぎ頑張っていきたいと思います。

私は卒業後、美容師の専門学校へ進学します。ボランティア活動で学んだことは、『何事も相手の立場になって考える』ということなので、将来、お客さんの立場になって色々提案出来る美容師になりたいと思います。

専門学校卒業後は、地元に戻り高齢者の方の訪問美容に携わり、力になりたいと考えています。

出羽 ありがとうございます。
 続いて、前島さんお願いします。

前島 今後は、町おこしや様々な人との関わりを大切にしたいと思っています。
私の将来の夢は体育の先生になることです。C G Sの他にもソフトテニス部に入っていて、スポーツが好きなので、スポーツの楽しさをみんなに知ってもらいたいです。進学しても将来的には和歌山県で暮らしたいと思っています。小さいときは都会に憧れ、大阪や東京に絶対住むぞ！と思っていましたが、田舎ならではの地域の人の距離感がすごく良いと思っています。

串本古座高校では今年から全国募集が始まり、県外からきた生徒がクラスに二人います。入学して半年が過ぎ、クラスに溶け込み幼なじみと同じように仲良く学校生活を送っています。串本古座高校は、1年生から3年生までみんなが顔見知りなので学校行事を行う時は非常に一体感があり、みんなで取り組むところが魅力だと思います。これからも地域に貢献し、串本町の良いところを発信したいと思っています。

出羽 ありがとうございます。
 続いて、尾鷲さんお願いします。

尾鷲

私は、小学校の時にエルトゥール号について、学校の先生から話をしてもらったけれど、あまり意味が理解できなかったことを思い出します。

私と同じような思いをしている小学生がいると思うので、面白くわかりやすく日本とトルコ、串本とトルコの関係を子ども達に伝えたいと思います。

また、前島さんも言っていましたが、CGSは今年できたばかりなので友達からもどういうクラブか質問されます。田舎は情報伝達能力が高くてもCGSの活動が伝わっていない。もっと地域の人と関わってCGSを知ってもらいたいと思っています。

将来の夢は、まだ決まっていません。しかし、中国語を勉強したいと思っています。中国語を聞く機会が多くなっていると思うので、語学力をつけ職業選択の幅を広げたいと思っています。

私の家は、自営業でお店をしており、最近、中国人のお客さんも多く来てくれますが、中国語は全然しゃべれなくて接客苦勞し、お客さんに迷惑をかけているので、しっかりと勉強し串本町に帰って来たいと思っています。ただ、就職はタイミングだと思うので、もし県外に就職しても串本町とトルコのことはいろんな場で伝えていきたいと考えています。

都会の人は、田舎の自然がきれいだと思っている人も多く、あまり文化に触れていないように感じています。自然だけでなく、串本の文化にも触れて欲しいと思います。来年、新しいホテルが串本町内で建設され、観光客が増えると思いますが、一方でゴミなどが増えることも予想されます。地域にいればすぐにゴミ拾いなどができ、地域に貢献出来ると思います。

ありがとうございました。

出羽

グローバル人材の育成が重要になってくると思います。上富田町の取組を紹介したいと思います。上富田町では国際交流協会という団体があり毎年1回「ワールドリーダーズセミナー」という事業を開催しています。事業内容としては、中高生を対象に神戸市にあるJICAを訪問し、1泊2日で外国人との交流やグローバルで活躍する企業等を訪問するなどの研修を行っています。

天野さんお願いします。

天野

青年クラブみなべが設立してから約13年が経ちます。今後は、高校生達とこれからどのようにして関係を構築し、地元で活躍していくか考えていくことが重要になるとと思っています。高校生と青年クラブといった若い世代が地元で活気づけば、町も必然的に活気づくと思っています。また、他の団体にも良い影響を与えることができるのではないかとと思っています。そのために青年クラブとして何をすべきか考えると、高校生との関わりを増やしていかなければなりません。今後は、高校生と協働で行う事業を計画していく必要があると考えており、そして将来的には関わってくれた高校生が青年クラブへ入会してくれるようにつなげていければと思っています。

ありがとうございました。

出羽

今日、話を聞いて、課題は人ではないかと思います。一番大事なのは、小学校の頃から地域のために何かしたい気持ちを醸成することが非常に重要になってきます。上富田町の取組ばかり紹介して申し訳ありませんが、上富田町では成人式を中高生が運営する取組を行っています。また、『くちくまのマラソン』の運営にも中高生が関わりを持ってくれています。関わり方も強制ではなく子供達が率先して関わってくれています。

まとめに入っていきたいと思います。最近、学校以外に青少年の社会活動の場を求める声が非常に大きくなってきています。日本の社会が『学ぶ』という言葉が学校中心に規定してしまったのは、いつの頃からか考えてみました。日本では子供の多くが家庭以外でも勉強できるようになったのは、江戸時代後期の寺子屋の発達からではなかったかと思います。小学校の就学率が100%になったのは、第二次世界大戦後の話であります。生活に必要な様々な知識や知恵、礼儀を含めて子供達が大人になっていく過程において身につけるべきことを教える役割は、家庭や地域社会が大きく担ってきました。昔は学ぶ場としての学校が果たせる役割は一部分に過ぎませんでしたが、いつの間にか、家庭や地域社会が果たす役割は非常に軽くなってしまったように感じます。一度失った基盤を取り戻すということは非常に難しいことですが、無くしてしまったものを嘆くよりも新たな仕組みを作っていく、考えていくということで、現在社会活動の場に魅力が薄いというのであればその枠組みを作っていくことが重要になります。今回、発表いただいたような活動、リレー式事業については、県が考案していただいて非常に良い取組であると思います。

本日、発表いただきました皆さんは、紛れもなく地域のリーダーとして今後活躍していくと思います。活動に必要な多様な人材と豊富な情報を求めるためには広いネットワークが必要になってきます。その意味でも本日ここに皆様方と語り合えたということが重要であったと考えます。地域のニーズにあったタイムリーな活動できるように地域と全体を見渡せるだけの広い視野を持っていただけることをこの場で期待したいと思います。長時間に渡りましたが、フォーラムを以上で終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。